

日本を知ること、伝えること

鎌田雄介氏 ジェネレーション・イレブン・ピクチャーズ
代表取締役

1000年を超えてつながる伊勢神宮と森と日本人の関係を描いた宮澤正明監督のドキュメンタリー映画『うみやまあひだ』。マドリド国際映画祭の外国語ドキュメンタリー部門で2冠に輝いたこの映画のプロデューサー、鎌田雄介氏がその原点を語った。

映画『うみやまあひだ』は、伊勢神宮で1000年以上にわたり続けられている20年に一度の式年遷宮を題材に、著名な写真家である宮澤正明監督が10年以上かけて撮りためてきた膨大な写真を中心に構成しています。

映画制作をスタートしてからは、どのような作品にしたらいいか、2人で大いに悩みました。というのも、伊勢神宮は、パリ市や世田谷区とほぼ同じ広さの5500ヘクタールもの敷地にお宮がぼつんとあり、自然の中にひっそりとたたずんでいます。この存在をどう伝えるか。

たどり着いた結論は、お宮を中心に1000年以上もの長きにわたり儀式が続けられてきた理由を探る「日本人と森」をテーマにした内容にすれば、伊勢神宮の本質に迫ることができるのではないかというものでした。また、宮澤監督の写真を中心に据えることで、言葉を介さずとも海外の人々に伝わる作品になると考えたのです。

それに加えて、「日本人と森」について、さまざまな方々にインタビューしてみようと思立ちました。そして、各分野で活躍する12人に話を伺いました。

12人の登場人物

河合真如さんは、伊勢神宮の神職で、神道についての専門家というだけでなく、当為即妙の語り

口でとても話の上手な方です。倉田克彦さんは、森の管理を担当する伊勢神宮の職員であり、遷宮に使うヒノキを200年計画で育てる役割も担っています。

田中克さんは、海と里と山の間をつなぐ、いわゆる汽水域を研究する京都大学の名誉教授です。池田聡寿さんは、数百年以上にわたり伊勢神宮に御用材を納めてきた木曾の木材会社の社長さんで、木遣り歌の名人でもあります。

隈研吾さんには超多忙なスケジュールの中から1時間だけ割いてもらい、建築家の視点で式年遷宮を語っていただきました。宮脇昭さんは、世界中で植樹活動を行い「4000万本の男」として知られる森の専門家です。

成澤由浩さんは日本のトップシェフで、食の面から伊勢神宮について語っていただきました。北野武さんは伊勢神宮を訪ねて感銘を受けたという話を知り、インタビューをお願いしました。

小川三夫さんは宮大工の大棟梁。大工として物づくりの立場から語っていただきました。大野玄妙さんは法隆寺第129世住職。法隆寺と伊勢神宮には自然に対する考え方に共通点があるという話を伺いました。

畠山重篤さんは、気仙沼でカキを養殖しています。海を蘇らせるため、山に木を植える活動を続けており、おそらく世界一有名な漁師です。大橋力さんは脳科学者であり作曲家。あのアニメーション映画

の傑作『AKIRA』の音楽を担当された人物です。

この12人のインタビューをどう紡ぐかも苦労したのですが、もう一つ心掛けたのは、最近よく目にする「日本のモノづくりは素晴らしい」「日本は素晴らしい国」といったストーリーにはしたくないという点でした。もちろん日本にはいいものが眠っているし、素晴らしい人々はいますが、いまの日本にはそういう素晴らしい人々ですら嘆かざるを得ない問題が至る所にあるという現実も、伝えたいと考えました。

着想の原点は海外の視点

大学卒業後、米国へ渡り、イチロー選手や松井秀喜選手の活躍ぶりを日本に伝える仕事に従事したのですが、そうした日々の中で日本を意識せざるを得ないことが何回もありました。

日本では、日本人は没個性であり、もっと個性のあるべしと言われ続けていたはずなのですが、野茂英雄選手の投球フォームもイチロー選手の打撃フォームも松井選手の日々のふるまいも、極めて個性的。当時は「彼らが特別なだけ」と答えるのが精いっぱいでしたが、日本へ帰ってからも、「日本の個性的なものとは何だろう」「日本のことを海外へ伝えたい」などと考え続けるようになりました。

たとえば、『うみやまあひだ』に登場する木曾の木遣り歌は、木を送り出す歌であり、作業のリズムを整える掛け声でもあります。ここまで木に対してリスペクトを持つのは日本のとても個性的な一面です。

今回インタビューした12人は、とても個性的な、それぞれオンリーワンの活躍をしてきた人物ばかりです。彼らのことを若い世代に受け継いでいきたい。そんな思いも『うみやまあひだ』には込められてい



Profile

かまた・ゆうすけ ● 1972年生まれ。映像プロデューサー。97年早稲田大学政経学部卒業後、渡米。TVディレクターとしてスポーツを中心に全米で取材。06年ごろから独立系映画の制作にも携わり、帰国後、映画・ドラマを制作。12年にジェネレーション・イレブン・ピクチャーズを設立。

ます。

この映画に対する海外の反応はさまざまでした。海外ではエコロジーや環境問題への関心が高く、上映会には大勢の観客が集まってくれました。ある上映会の後によく尋ねられる質問があります。「インタビューに答えた12人は全員男だ。なぜ女性が1人もいないのか」というものです。実際は、紹介を受けたり人間関係の中でつながっていった結果がこの12人。意図的に男だけにしたわけでは全くありません。むしろ、女性も入れたほうがいいのではないかと検討もしました。

このような質問には、「伊勢神宮に祀られている天照大御神は女性神。つまり女性がトップで男は下僕。出演者は12人の下僕です」と笑いをとってその場を切り抜けています。

トラベル懇話会からのお知らせ

【会員募集】

トラベル懇話会では、会員を募集しています。詳細は事務局までお問い合わせください。資料などをお送りいたします。

■ウェブサイト

<http://www.tmclub.jp>

■トラベル懇話会事務局

E-mail: jimukyoku@tmclub.jp

Tel: 03-6682-5674

Fax: 03-6682-5676